

【3】天神ってこんなまちです

(天神地区の歴史)

天神地区は、天神山の南東斜面から佐世保湾に突き出した崎辺半島に続く広大な地域で、北西の風がさえぎられ、日当たりもよく、海にも近いため、遠い昔より人が居住していました。天神洞穴前畑遺跡からは石鏃や石斧、石槍などの石器が出土しており、縄文期あるいはそれ以前から人が居住していたことがうかがえます。

明治以降、天神町は東彼杵郡日宇村崎辺免、大黒町は福石免、東浜町は崎辺免東浦と呼ばれていましたが、昭和2年4月に日宇村が佐世保市に合併し、その後、免制度の廃止で天神町、大黒町、東浜町となりました。

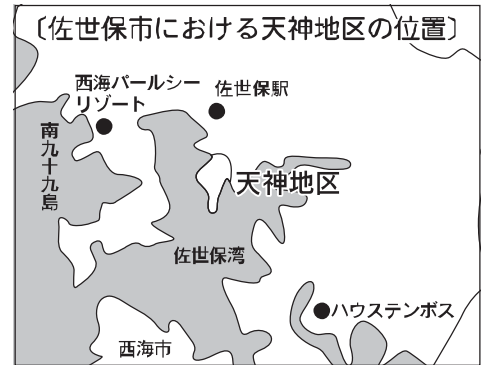
戦時中、天神山には8センチ高射砲、12センチ高射砲、また、現在の港小学校裏手の山には25ミリ高射機関砲が据え付けられた一大要塞地であり、300名もの海軍兵が常駐していました。三面が海に囲まれた天神地区は軍事上重要で、その大半が軍事用地として使用され、風光明媚な天神地区も、軍の許可なくしては家も建てられませんでした。

戦後、その要塞もなくなり、どこでも住宅が建てられる時代となりました。昭和28年に天神小学校や公営住宅が建設、昭和36年には十郎原団地が建設され、十郎新町ができました。それとあわせて一般住宅の建築も始まり、あれよあれよという間に一大住居地として現在に至り、地区住民が一体となり、安心安全のまちづくりに取り組んでいます。

★天神地区って……どのあたりをいうの？

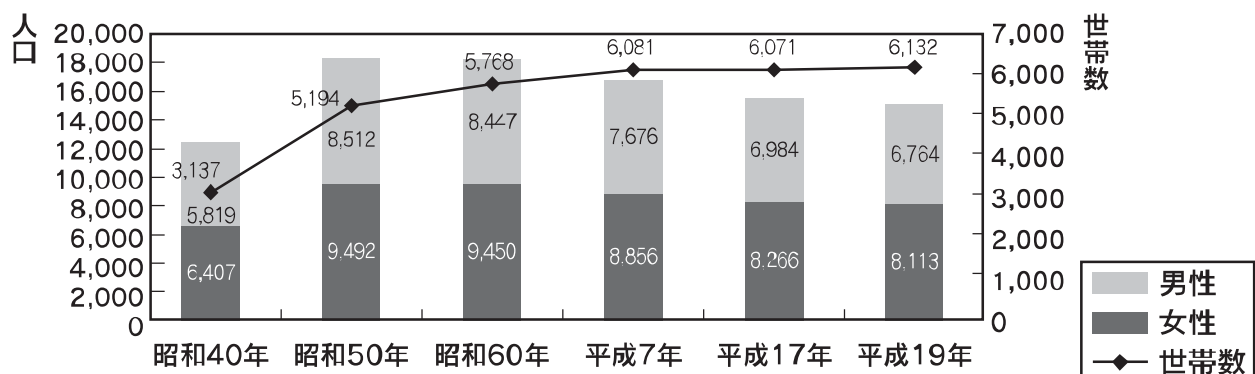
現在、天神地区と呼ばれる範囲は、次のとおりです。

町名	天神1～5丁目、天神町、十郎新町、東浜町、大黒町
----	--------------------------



十郎原から見た天神山

(天神地区の人口推移) ※いずれも10月1日時点の統計資料



(天神地区“わがまち自慢”)

天神地区には“自慢”がいっぱい！その一部を紹介します。

天神森のつどい

自然の中で地域住民がふれあいを深めるとともに、世代間交流を通じた住みよいまちづくりを目的として、毎年10月第3土曜日に開催し、平成20年で22回目を迎えます。

西天神町子ども会による子どもみこしの行進に始まり、崎辺・福石・山澄中学校の生徒による活発な意見発表、児童センターの児童による子ども民謡の披露、昔懐かしい竹馬遊びや紙飛行機、輪投げなど、盛りだくさんで大賑わいです。

野外での活動を通じた人と人との出会いは、子どもたちの育成に大切です。地域の皆様もご参加ください。



子ども相撲大会

日本の国技とも言われる相撲を通して、他町との交流、世代間交流を図り、子どもたちの健全な育成を願って、毎年5月の「こどもの日」の前後に、東公園(海軍墓地)の土俵で開催しており、平成20年で24回目を迎えました。

福石・天神・港の各小学校4年生以上が参加し、団体戦・個人の勝ち抜き戦を行っています。裸に白いまわしをつけて、元気いっぱい熱戦が繰り広げられ、「気を抜くな！思い切っていけ！」という声援が飛び交います。大歓声に包まれて、大変にぎやかな一日です。

参加した子どもたちは、懐かしい思い出になることでしょう。



東浜女相撲

昭和6年頃に、東浜在住の高田新作氏が入り入れた東浜女相撲は、昭和9年の旧市役所庁舎落成式をはじめ、昭和43年ふるさとの歌まつり、昭和58年西蓮寺本堂の屋根替魔法要、佐世保市制100周年記念行事等で披露してきました。

現在では18名の会員が受け継ぎ、先輩方のご指導を受けながら、約76年の伝統を受け継いでいこうと、いろいろな行事へ参加したり、福祉施設等を訪問して披露しています。この伝統が長く続くようがんばります。



菅原神社

菅原神社は、菅原道真公を祭神とする天満宮であり、天神地区一帯の守護神として靈験高き神様とされています。歴史も古く、建立は約200年前とされています。昭和58年には社殿の建て替えが行われ、その後神社の維持管理は奉賛会で行っています。

毎年の祭り事としては、10月下旬の「秋祭り」、1月1日の「新年祭」、1月中旬の「合格祈願祭」です。なかでも「秋祭り」は、広く住民に親しまれており、社殿での神事後、大みこし、子供みこし、婦人による道行き踊りを仕立てて町内を巡行し、大いに盛り上がります。



町民ふれあいスポーツ大会

西天神町の町民ふれあいスポーツ大会は46年連続で開催され、平成20年で47回目の開催となります。町内にある2つの小学校を、毎年交互に利用し、晴天の場合は運動場で、雨天の場合は体育館内で開催しています。子どもからお年寄りまで約1,000人が参加し、和気あいあいと汗を流しています。最後には万歳三唱で締めくくり、笑顔で帰宅します。

